



きものの着方



※個人・流派等により着方・道具が異なる場合がございます。

1



きものの掛け衿の所を持って片方ずつ肩に掛ける。

2



左手で右の掛け衿あたりを持ち右手で長襦袢の袂を持って、肘から袖に手を通す。反対も同様。

3



袖の振りから手を入れて、長襦袢ときものの袂を合わせる。

4



両袖の長さを揃え、背中心を合わせる。衿先から手幅ひとつ分のところと、背中心を持ち、いったん裾を床と平行にぐつと持ち上げてから、床すれすれに裾丈を決める。

5



左右の衿先を持ち、床をなでる様に上前の裾を右脇まで持つていき、上前幅を決める。
目安…右足中指の上に枉線

6



右記⑤をいったん戻し、下前、上前の順に裾を合わせる。この時、どちらも裾先を上げる。

7



右手で腰紐の真ん中を持ち、上前を押さえている左手のところに当てる。

8



両腰骨の間に腰紐を当てて上前をしつかりと押さえる。



15

おはしよりを整え、伊達ヅを締める。



12

下前のおはしよりを三角に折り上げる。



9

腰紐を腰の一番くぼんだあたりで交差させる。



16

完成♪



13

左の身八つ口にコーリンベルトを入れ、半衿の出具合を見てベルトをウエストより少し高め的位置でとめる。コーリンベルトを背中にまわし、右も左と対照に上前の衿先をとめる。



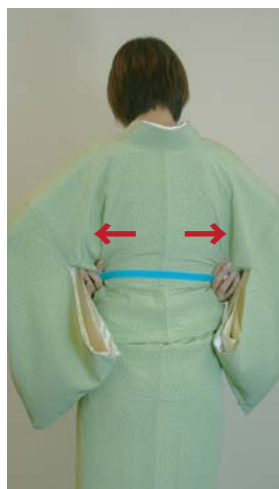
10

腰紐を前でしっかりと片蝶々結び(または蝶々結び)にする。



11

おはしよりをつくる。まず後ろ身頃に手刀を通す。次に、前身頃も同様に手刀を通す。



14

背中の中のシワやたるみを取る。たるみを取る時、あまり強く引くと衿元が崩れるので注意。

